

第5回福島県双葉郡子供未来会議 実施報告

1. 主催

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会

2. 日時・場所

平成26年1月24日（金） 13:00~17:00

ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）

3. 参加者 77名

- ・各町村立学校教職員 47名
- ・その他関係者（双葉地区教育長会、福島県教委、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等） 30名



4. 概要

双葉郡の各町村立学校の教職員 47 名が集まり、双葉郡教育復興ビジョンの具現化に向けて教育関係者 30 名も加わりながら、ワークショップを行った。日々子供たちと接している現場の教職員の先生方は、「教育について今思うこと、感じること、考えること」について、多くの意見や思いを話し合った。

開会の挨拶では、大熊町武内教育長より日々双葉郡の子供たちのために尽くしてくれている教職員の先生方に向けて感謝が述べられるとともに、双葉郡の未来は教育にかかっているため知恵を出して欲しいと呼びかけがあった。教職員 47 名と教育関係者が各テーブルに座り、前半は日頃子供たちと接していて双葉郡の教育について感じることや考えることなどを話し合った。前半の途中において、双葉郡教育復興ビジョンのとりまとめの想いを武内教育長より、ビジョンの説明を荒井委員より行い、改めて各テーブルで議論を継続した。後半においては、前半で出てきた内容の中からテーマを出し合い議論が行われた。冒頭「ビジョンは教員にとってもやりたい教育を新しく創り出せるチャンスである」との発言があり、「具体的な教育課程のアイデア」「留学の具体像」「入学して欲しい人材像と、卒業時の人材像」「一貫校の特色を宣伝する情報発信」「魅力ある新しい学校の部活動について」「新しい学校の名前」「新しい学校の校歌」など、多数のテーマが挙げられ、話し合いを行った。

議論の中では、「中身もスタイルも大幅に変える教育課程が必要であり、講義中心の今までの学校像は捨て、自然科学学科、国際科等の特色ある学習を行えるようにすることが必要」「広い視野で世界を捉え生き方を考えるために一流の人の外部講師を招聘したいが、受け身のレクチャーでは無く、体験的・問題解決学習と関連づけて行うことが必要」「双葉郡のふるさとをどうするのかという問題は東北・日本の問題を考えることでもあり、このど真ん中の問題の学習を中心に据えることが必要」「個々の生徒の成長・指導の個別計画をつくり手厚い対応をしたい」「全国世界に双葉郡を発信する学びを取り入れることで、創造力の育成や地域活性化につなげられる」「興味関心に応じたテーマで中高6年間のうち1年間は留学が可能としたい」「国内の外資系企業とも連携した国際教育を行いたい」「企業と連携し高度な技術を学ぶと共に将来の双葉郡での就職にもつながる学習を行いたい」「学習内容でも大学と連携した上で、大学入学の推薦枠等も設けて欲しい」「地域や企業とタイアップした特色有る部活動をつくれぬか」「双葉郡の復興の夢を語る生徒を育てたい」「制服や校歌でも学校の魅力はアピールできるため重要である」等の多くの意見が出た。また、新しい学校について具体的に考える一方で、今ある既存の学校こそ真剣に考えていかなければいけないといった今の子供たちを思う意見が多く出された。

この議論の中では、教育復興ビジョンが改めて教職員の先生方に共有され、「きれい事に感じたビジョンが身近なものになった」「ビジョンの未来が見えた」「各町村だけを考えるのではなく、双葉郡の学校として考えることができた」「発想を豊かにし、夢を語らうことができた」「新しい学校と既存の学校が切磋琢磨して双葉郡として良い教育を作っていきたい」など多くの感想が寄せられ終了した。

講評として、福島大学人間発達文化学類千葉学類長からは、「先生方が子供たち以上に夢や希望をもって考えている姿に感銘を受けた。大学として共に取り組み、復興を先生方と一緒に考えていきたい」と話があった。次に、福島県教委尾形理事より「郡内の先生方の子供たちを想う熱い気持ちや良い学校を創ろうといういろんなアイデアを聞いて大変良かった。机上で考えるのではなく、皆さんからアイデアをもらい良い学校としたいと考えている。子供たちが入学したい

と思う学校をしっかりと作っていききたい。まずは今の学校との連携をしっかりと行い、みんなで双葉郡のこと考えていかななくてはならない。どういう子供たちが集まってくるのかをしっかりと考え、誰のための学校かと言うことを頭を中心において考えていくことが大切と重く受け止めた」と講評があった。そして、主催者の代表として浪江町畠山教育長より、参加した教職員の先生方に御礼が述べられるとともに、「今日は、双葉郡の子供たちの状況や親の思いに向き合いながら力を尽くしている先生方と、双葉郡の教育復興について共に考え、大変有意義な時間を過ごすことができた。今日はビジョンが教育現場に根ざす大切な会となった。ビジョンの実現は時間がかかるが、一步前に進んで、各学校で尽くしている先生方と今日話したことが今後の復興に結びついていくので、この出会いを大切にしていきたい。」と話があった。また、文部科学省からは生涯学習政策局佐藤参事官補佐より「協議会において多くの議論を重ねているが、現場の先生方の思いや声を聞いて、ビジョンの推進にあたって前進した会となった。文科省として双葉郡の教育復興についてさらに一丸となって取り組んでいきたい」と話があった。最後に閉会にあたり、川内村秋元教育長から「本日双葉地区の先生方と意見交換をし、それぞれ夢を聞き、その夢は必ず子供たちに伝わると感じた。これから厳しい現場に戻りますが、私たちも先生たちと一体となって頑張っていきたい」と話があり、閉会した。

《参考：参加者詳細》

○参加者 77名

・福島県双葉地区各町村立学校教職員 合計 47名

- 大熊町 8名（熊野小学校3名、大野小学校2名、大熊中学校3名）
- 葛尾村 6名（葛尾小学校3名、葛尾中学校3名）
- 檜葉町 6名（檜葉北小学校2名、檜葉南小学校2名、檜葉中学校2名）
- 浪江町 4名（浪江小学校1名、浪江中学校3名）
- 富岡町 8名（富岡第一小学校2名、富岡第二小学校2名、
富岡第一中学校2名、富岡第二中学校2名）
- 広野町 6名（広野小学校3名、広野中学校3名）
- 双葉町 3名（双葉中学校2名、双葉北小学校1名）

・その他関係者 30名

福島県双葉郡8町村教育長、福島大学ボランティアスタッフ、福島大学関係者、福島県教委、文部科学省、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会関係者 等

《参考：日程詳細》

平成 26 年 1 月 24 日（金）13:00～17:00

13:05～13:15 開会挨拶大熊町武内教育長

13:15～15:20 前半の部（ワールドカフェ）

13:15～13:35 前半の部進行説明

13:35～14:10 「教育について、今、思うこと、感じること、考えること」について
話し合い

14:10～14:20 グループを移動、上記テーマについてメンバーを変えて話し合い

14:20～14:40 双葉郡教育復興ビジョン説明（大熊町武内教育長、荒井委員）

14:40～14:50 ビジョン説明を踏まえ話し合い

14:50～15:05 グループを移動、話し合い

15:05～15:20 最初のグループに戻り議論の共有

15:20～15:30 休憩

15:30～16:30 後半の部（オープン・スペース・テクノロジー）

15:30～15:40 テーマを A4 用紙に記入しホワイトボードへ貼る

15:40～16:00 テーマ別話し合い

16:00～16:20 発表・感想

16:20～16:30 アンケート記入

16:30～16:50 講評（福島県教委尾形理事、福島大学千葉人間発達文化学類長、浪江町畠
山教育長）

16:50～17:00 閉会挨拶（川内村秋元教育長）

